2023年度 グリフィンズ便り　3号　9/30　慶應戦

53秒の悪夢
時間を制する者は勝利を制す

	1Q	2Q	3Q	4Q	total
明治大学	0	3	0	7	10
立教大学	0	7	0	7	14

試合終了前、32秒から＃39廣長晃太郎は、オフェンスラインの見事な守りを盾に、ゴールに向かった。タッチダウンは奪えなかったものの、圧巻の走りを見せた。この日、廣長は22回キャリー、107ｙｄを獲得。廣長の気概は、立教・猪俣のそれを上回っていた。無情にも残り5秒で投じたヘイルメリーパスはレシーバー3人を置いても、ボールは手中に収まらなかった。

ただただ、立教＃6・猪股賢祐の、魂がこもった走りを称賛し、敗北を認めるしかなかった。

立教オフェンスを完封したディフェンス陣は、個人的にはTOP8の中で最強ユニットだと確信した。

慶應戦・みどころ

前節法政戦では、21対14と善戦した慶應。

前半21対0と、強さを見せつけた法政。後半はそのまま逃げ切る戦略だったと推測するが、慶應が1TDを奪ったものの、TFPを外し6点に終わる。しかし、4Q。慶應＃44北田　祥が、法政のパントを防御し、地面に落ちたボールを＃6横手謙太朗が35yd走り、エンドゾーンに持ち込みTD。2Pコンバージョンも決まり、1本差に追いつくが反撃もここまで。百戦錬磨の法政ディフェンスがこれ以上得点を許さなかった。

得点はオフェンスだけが重ねるものではない。ディフェンス、キッキングチームも得点するチャンスがそこにある。事実慶應（立教も）は、オフェンスではなく、ディフェンスで流れを変えた。

ここ2試合、オフェンスの仕上がりは決していいとは言えないグリフィンズ。流れを変え、得点するには、ディフェンスのターンオーバー、キックオフリターンでのロングゲインなどがこれまで以上に期待される。

なんとしても勝ち切りたい1戦

捲土重来

9月30日(土) 11:00
アミノバイタルフィールド
Kick Off

発行責任者：会長大澤　もとみ 編集：中野真貴子（22年卒）